

医学教育センター 専門教授 就任のご挨拶

大阪医科大学 医学教育センター 専門教授 瀧谷 公隆



平成30年7月1日付けで 医学教育センター 専門教授（副センター長）を拝命いたしました。本学の医学教育センターは平成15年に設置され、医学教育の企画と実行を使命としています。寺崎文生センター長を中心に、教育プログラムの作成、学生の教育効果の測定、教員 の能力向上、教育に関する評価、教育に関する研究の推進などの事項を審議して実施しており、本学の医学教育の充実、発展に向けて活動しています。

現在の本邦における医学教育は変革の時期を迎え、新たな時代へ移行しつつあります。その例として、国際基準に則った医学教育プログラムを作成し、遂行することです。

本学は新しい医学教育プログラムを作成し、2018年12月、世界医学教育連盟の認証機関である日本医学教育評価機構の認証を受けました。現在、新しい医学教育プログラムの元で、学生教育を行っております。

あらたな医学教育の取り組みとして、新カリキュラムの3年生から学生研究が始まります。これは、研究マインド醸成の試みとして、学生が基礎・臨床医学教室に配属され、それぞれの専門分野の研究を行います。さらには垂直的統合教育の一環として、各学年を通じて、段階的に「医療プロフェッショナリズム」に関する講義を設定しています。さらに大きい改革として、診療参加型臨床実習の期間が大幅に増えました。新カリキュラムでは、66週間（44週間の学内・22週間の学外）の臨床実習となります。そこで、本臨床実習におきまして、院外臨床実習（実習協力病院および診療所）の充実、シ

ミュレーションによる体験型実習の拡充、屋根瓦方式による臨床実習、WEBによる学生評価方法の導入（UNIVERSAL PASSPORT）を行うことで、効率的な臨床実習プログラムを構築し、さらには卒後臨床研修へのシームレスな移行を目指しております。

本学学生を全方的に取り巻く教育環境・システムを構築し、さらに本学学生に適した独自の統合カリキュラム（垂直的統合と水平的統合の融合）を策定していきたいと思っております。そのためには、学内の大学教職員、レジデントのみならず院外臨床実習をさせていただく実習協力病院における指導医の先生のご協力が必要となります。さらには多職種連携教育も重要ですので、医療スタッフのご協力も不可欠となります。そのためには、学内外を問わず、指導される先生を対象としたFaculty Development（大学教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組）を積極的に取り入れて行きたいと思っております。医師会員の先生方には今後とも、是非ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

略歴

平成元年 大阪医科大学医学部卒業
3年 大阪医科大学 大学院 入学
7年 博士(医学) 学位授与
8年 東京大学分子細胞生物学研究所 博士研究員
11年 大阪医科大学 小児科学教室 助手
19年 大阪医科大学 小児科学教室 講師(准)
28年 大阪医科大学 小児科学教室 講師
30年 大阪医科大学 小児科学教室 診療准教授
同年 大阪医科大学 医学教育センター 専門教授